

2.20 13回ワイン研の報告

\*「ワイン研究会」の第13回例会を2月20日(金)に開催しました。

日時 平成27年2月20日 15時—17時

場所 カフェ「カサグランデ」(西武多摩湖線一橋学園駅傍)

出席者 荒木、井垣、伊藤(順)、伊藤(徹)、小川、大島、国友、滝沢、富平、野村、山本、以上11名(敬称略)

\* 1月例会から始めたトランプを引いて当日の席順を決めるのを、さらに、ジョーカーを引いた人はその日の開栓などの世話をするという新趣向にしたこの日、2枚のジョーカーを引いて名誉ある(?)初の世話役となつたのは、大島さん、富平さんの二人。



本日のソムリエならぬボーイさん2人

スパークリングワイン・サンライズで乾杯！！

\* 会は、大島さんが慣れた手付きでスパークリングワイン・サンライズ(チリ)を開け、皆で乾杯して始まったが、続けてドイツアルト地区で150年の歴史を持つという醸造所産の「VON BUHL」のスパークリングワインを山本さんのいつもながらの解説を聞きながら味わった。



本日飲む予定のワインが勢揃い！左より4番目が噂の東京ワイン！ + ドイツ「VON BUHL」のスパークリングワイン

\* 今回の持ち寄りワインは会の準備したのも含めて、フランス、イタリー、ドイツの旧世界はもちろん、アメリカ、アルゼンチンなど新世界のワインが集まってその数9本と賑やか。中には「欠席するがワインは届けます」と言って届いた馬場さんからの東京ワイン(白)も。

\* これらのワインの味を楽しむ欠かせないのが料理。店のオーナーが店のメニューにはない料理を特別に用意くださることになって、この日は「肉だんごとサラダ」「鱈の蒸し焼き」の二皿が出て会員も大喜び。



肉料理



魚料理



コーヒー

\* イタリアを代表する世界的なテノール歌手・アンドレア・ボチェッリの実家で創業130年のワイン蔵元「ボチェッリ」(赤)や、「ジルペール&ガイヤールコンクール」で金賞メダルを取った「ペックマテル メロー」(赤)などのワインにまつわる話題も豊富に会員相互の会話も活発になっていく。





あちらでもこちらでも楽しい話題で笑顔が広がる

\* ワインを飲みながらの恒例「ワイキキタイム」。今回のテーマは「食前酒」と「食後酒」。料理前の「取りあえずビール！もありだが、やはり定番はシャンパンやスパークリング・ワイン」とあって、ワイン研の毎回のスパークリングワインでのスタートは「正解」と納得。食後酒にはポートワインなどの甘口ワインかブランデーが定番。ワインを蒸溜したものがブランデーと呼ばれ、フランス語で「オード・ヴィー(命の水)」と呼ばれることなどを知った。



ワイキキタイムも真面目に、真剣に！！

\* ワイングラス片手の談論風発の2時間は瞬く間に過ぎていく。コーヒータイムに入ったところでワイン研会長から「この会も時にはどなたかをお呼びしてワイン関連の話を聞くような時間をもちたいがー」との提案あり、皆さん賛成して次回以降への新しい企画を期待して2月例会は散会となった。(文 井垣 写真 荒木)

次回の第14回例会は、3月20日(金)、「カサグランデ」で。

会費は2,000円+任意のワンコイン寄付です。

会員制ではありませんので、当日ワインを楽しみたい方、どなたでも歓迎。

手ぶらで気軽にご参加ください。ただし、準備の都合あり、3月15日(日)までに

井垣(090-1196-1471)に参加申し込みの上、ご出席ください。